



「うらしまたろう」



どんなおはなし？



“むかしむかし浦島は、助けた亀につれられて…”

「うらしまたろう」

日本の昔話



うらしまたろうは、うみでさかなをとりながら、お母さんとくらしていました。ある日たろうは、子どもたちにいじめられていた子ガメをたすけます。するとつぎの日、子ガメをたすけてくれたおれいにと、たろうは大きなカメにつれられて、うみのそこのりゅうぐうへとあんないされます。そこでは、うつくしいおとひめが、さかなたちのおどりや、ごうかなりょうりてたろうをもてなしてくれました。ゆめのようなじかんをすごしていたたろうですが、一人のこしてきたお母さんをおもい、むらへかえることをけっしんします。そんなたろうに、おとひめは、たまてばこをわたします。「けっしてあけてはいけませんよ」というやくそくとともに…。



出演者



えもと ときお
柄本 時生 さん

ドラマや映画(えいが)、舞台(ぶたい)でかつやくする、はいゆうの柄本時生(えもとときお)さんが、うらしまたろう、おとひめ、そしてカメを一人でえんじます！一びきのカメをたすけたことで、こころやさしいたろうの人生(じんせい)がどのようにかわっていくのか？ 海(うみ)の中(なか)のせかいをそうそうしながら見てください。



番組イラスト／「読んでみよう！」イラスト制作



イラストレーター
タムラ フキコ

